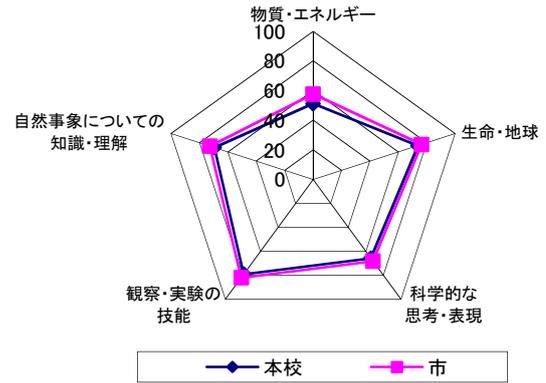


宇都宮市立新田小学校 第5学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	物質・エネルギー	51.2	57.6
	生命・地球	73.8	76.3
観点別	科学的な思考・表現	65.8	68.1
	観察・実験の技能	79.0	82.0
	自然事象についての知識・理解	69.6	72.7



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>・宇都宮市の平均正答率と比べ、6.4%低い。「ふっとう石」と答える設問での正答率が市の平均と比べ、25%低かった。水と金属のあたたまり方の違いについての設問で、市の平均よりも4.6%低く、冷やした容器の外側に水滴がつく現象を説明する設問での正答率が、市の平均よりも1.4%低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の実験で使用しているふっとう石の形状と設問中の図のふっとう石の形状が異なっていたことが原因と考えられるが、「ふっとう石」に限らず、実験に際して、器具の形状ではなく、使用する目的をきちんと理解してから使用する指導を徹底する。 ・視覚等の五感に訴える実験を行うとともに、結果を概念として定着することができるように、文章によるまとめだけでなく、図化するなどの作業を行う。 ・実験の結果や考察を自分の言葉でまとめる活動を、必ず単元毎に取り入れる。
生命・地球	<p>・宇都宮市の平均正答率と比べ、2.5%低かった。植物の成長と日光との関係性を調べる実験を適切に選択する設問では8.4%低く、「受粉」について答える設問での正答率は、市の平均よりも7.3%低かった。「受粉」の意味ではなく、方法を答えている誤答が目立った。また、「晴れ」と「くもり」の違いについて答える設問での正答率が全国平均とほぼ同程度であったが、市の平均よりは10.7%低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・条件を統一するという実験の基本を踏まえ、実験の計画を立てる指導を徹底する。 ・「受粉」の意味と方法の違いを、具体的な例に基づいた指導を行う。 ・教科書による理解だけでなく、実際の天気を判断させる活動を取り入れる。 ・実験の結果から、資料を用いて、川原ができることの原因付けをしっかりと押さえる。